

会員だより

別子銅山天空の産業遺跡
東洋のマチュピチュ
の異名を誇る

東平(とうなる)ゾーン
「マチュピチュ」と
はペルーに残る「イン
カ」の遺跡、「東洋の
マチュピチュ」とは、
新居浜市東平(とうなる
)にある別子銅山の
最盛期に彩鉱本部が置
かれ、その産業遺産が、
今でも残

り、旅行会
社、マイン
トピア別
子、リーガ
ロイヤル



ホテル
新居浜
のコーラ
ボレー
ション
により
関西圏

などから四国ツアーに
組み込まれ 人気を観
光スポットになっ
てい
る。一度春か秋に散策
してみたいかがです
か。
本家のマチュピチュ

には未解明の遺跡も多
いが、東平のマチュピ
チュは当時の資料や写
真が多く残る。閉山後
は各地にさつて行つた
人には懐かしく、知ら
ない人には新鮮に映る
かもしれない。閉山後
は撤去された施設跡に
植樹が行われて自然の
森に帰る「森の街」も
体感できます。

端出場(はてば)ゾーン
マイントピア別子

西暦1973年(昭
和48年)の閉山まで採
鉱本部が置かれていた
端出場は、遺構を活か
したテーマパーク「マ
イントピア別子」とな
っている。1893年



(明治26年)に架けら
れたドイツ製のピント
ラス橋、1912年(明
治45年)完成の旧水力
発電所、など国の登録
有形文化財が点在、近
代化を躍進させた現場
の空気があふれている。
N・T

熊野古道伊勢路

遂に熊野速玉大社で
大願成就の第一歩

さあ伊勢から出発し

た旅も12回目の一泊
旅行で熊野三山参拝の
ゴールへ辿り着く。



今回も高槻を出発し
たバスは枚方の客を乗
せ、高速道路を乗り継
ぎ、4時間で三重県熊
野市に入る。

途中から語り部二人
が乗り込んで、風伝(ふ
うでん)峠の登り口に
着く。この峠は熊野か
ら現在の田辺に抜ける
生活の道であり、山の
幸と海の幸を交換商い
の品として重い荷物を
背負い、喘ぎながら越
えた峠である。257
mの風伝峠は熊野灘の
海風を山々に運び上げ、
大台山系から冷たい風
を紀州の浦々に吹き下
ろすという風の通り道
となつて一年中、霧と
風の止むことのない峠
という所(風顛)から

この名がついたとも言
われている。この峠に
到る道にも角張つた石
で敷き詰められた石畳
も江戸時代のもので、
一人1日1石の労働だ
つたらしい。参詣道は
海岸沿いの道があるが、
共に世界遺産とされて
いる。国道311号の
風伝トンネルが出来て、
自動車であれば4・5
分の所を私達は2時間
余りかけて歩いた。

いよいよ熊野三山

の一つの速玉大社に参
拝である。色鮮やかな
朱塗りの社殿が新宮市
の熊野川河口近くに鎮
座して

いる。長
い厳し
い伊勢
路を参
詣の願
い一途
に歩い
てきた
先人達
はさぞかし有難い存在
であっただろう。現在
の新宮市民にとつても
心の故郷であり、自慢
の種と語り部から聞く
その夜は建物の大きさ



君子蘭

3月下旬から塚脇の温泉所
の玄関に見事に君子蘭の鉢
が並んでいる。

一般の家庭の庭では花芽も
出ていない。

きつと冬の間温泉の恩恵を
受ける所でヌクヌクと過ご
せたのだろう。

開花前、温度が60日間、
10度まで下がるのも栽培
の秘訣。

「高貴な花」のイメージから
「君子蘭」と名がついたら
しい。
S・U

ムスカリ

花は鮮やかな青紫色でブドウ
の実のように見えること
から、ブドウヒヤシンス
と呼ばれる。

開花期は3月初旬から4
月末頃。花弁は開かないま
ま、落ちて行く。花はやぶ
らんや、龍のひげに似てい
る。最近では紫濃淡・白・混
合など栽培種が増えてきて
いる。

球根で育てやすく、公園で
も自然繁殖も見られる。



と温泉からの眺望で有
名な、ホテル浦島に渡
し船で渡る。夕食には
さすがに漁港の町、マグ
ロや甘エビ、ハマグリ
の料理がたっぷり並
ぶ。マグロの解体ショ
ーもある。用意された
のは26・2キロと記さ
れていて、その大きさ
に驚いたが、前日勝浦
漁港で411キロのマ
グロがセリに出され、
二百七十一万円(3千
人分)だったらしい。

六つある温泉は夫々特
長があり、床に書かれ
た色分けラインに沿つ
て行くようにとロビー
で説明を受ける。その
うちの一つ忘帰洞は旅
館の出来た頃、徳川藩
主ゆかりの方が、帰心
を忘れ、飽かずに洞窟
から太平洋を眺めたい
と云われたことから、
忘帰洞温泉、と名がつ
いたらしい。私達も温
泉でゆっくり過ごした
いが、スケジュールに
追われるツアーではそ
うもいかぬ。さあ明日
も頑張ろう。
S・U